

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：遺家族等援護費

事業名 戦没者追悼事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 地域福祉課 管理援護係 電話番号：058-272-1111(内3442)

E-mail：c11219@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,219 千円 (前年度予算額： 8,469 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,469	0	0	0	0	0	0	0	8,469
要求額	7,219	0	0	0	0	0	0	0	7,219
決定額	7,219	0	0	0	0	0	0	0	7,219

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

日清戦争から太平洋戦争までの間に、戦場において又は空襲などによって犠牲となった本県出身者の方々を慰霊するため、各種追悼事業を行う。

(2) 事業内容

- ・岐阜県出身の戦没者追悼式（県戦没者追悼式）の実施
於：岐阜県戦没者慰霊塔（10月）
- ・慰霊巡拝等での献花
戦没者遺族が海外の慰霊巡拝に参加する際、現地での献花（知事名）を依頼。
- ・戦没者慰霊塔及び旧陸軍墓地の維持管理
- ・沖縄及び南方諸地域戦没者追悼式の実施
於：沖縄県糸満市摩文仁の丘 岐阜県慰霊塔（11月）
- ・岐阜県戦没者慰霊塔、沖縄慰霊塔、旧陸軍墓地の維持管理

(3) 県負担・補助率の考え方

国家としての戦争により犠牲となった本県出身の戦没者を悼み、その御霊を慰めることで、戦争の記憶・記録を風化させることなく、その悲惨さと平和の大切さを未来へ語り継いでいく。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	623	全国、沖縄及び南方諸地域戦没者追悼式等への参列旅費
需用費	72	全国追悼式供花、県追悼式案内状印刷等
役務費	70	県追悼式仮設トイレ汲取り料等、通信運搬費（電話、郵便料）
委託料	6,303	県追悼式会場等設営業務委託、慰霊塔等の維持管理
使用料及び賃借料	151	音楽隊バス借上げ料等
合計	7,219	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

国の状況：全国戦没者追悼式(8月15日) 太平洋戦争で亡くなった戦没者を悼み、その御霊を慰める。遺族約6,000人が出席する。

他県の状況：同様の事業を実施。

(2) 後年度の財政負担

毎年度、予算の範囲内で対応

(3) 事業主体及びその妥当性

国家としての戦争により犠牲となった本県出身の戦没者を悼み、その御霊を慰めることで、戦争の記憶・記録を風化させることなく、その悲惨さと平和の大切さを未来へ語り継いでいく追悼式を県として実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

戦争により犠牲となった本県出身の戦没者を悼み、その御霊を慰めることで、戦争の記憶・記録を風化させることなく、その悲惨さと平和の大切さを未来へ語り継ぐ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

戦没者を追悼することで戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えるものであり、指標は設定できない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	追悼式の実施などにより、戦没者を悼み、その御霊を慰め、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えた。 ・全国戦没者追悼式 令和2年 8月15日（土） 岐阜県遺族11名参加 ・岐阜県戦没者追悼式 令和2年10月23日（金） 参列者 約50名
令和 3 年度	追悼式の実施などにより、戦没者を悼み、その御霊を慰め、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えた。 ・全国戦没者追悼式 令和3年 8月15日（日） 岐阜県遺族3名参加 ・岐阜県戦没者追悼式 令和3年10月22日（金） 参列者 約50名
令和 4 年度	追悼式の実施などにより、戦没者を悼み、その御霊を慰め、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えた。 ・全国戦没者追悼式 令和4年 8月15日（月） 岐阜県遺族8名参加 ・岐阜県戦没者追悼式 令和4年10月21日（金） 参列者 約400名

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	追悼式の実施等により、戦没者を悼み、その御霊を慰め、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えることが必要。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	毎年度戦没者追悼式を挙行し、戦没者の方々を慰霊するとともに、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えることができおり、効果が得られている。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	各追悼式を年1回実施

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 戦後78年を経過した今、戦争体験や戦争の悲惨さ、平和の大切さについて、風化させることなく後世に受け継いでいく必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 戦没者を悼み、その御霊を慰め、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えるため、今後も引き続き実施。
